会議議事録

会議名	第２回四国中央市地域福祉計画審議会
開催日時	令和３年６月２４日（木） 13：00～15：00
開催場所	福祉会館４階多目的ホール
出席者	委員　14 名 （藤枝俊之　篠原徹　越智義文　鎌倉尊子　藤田弘子　石黒忠則 井原佳代　高橋尚子　髙橋惇　鈴木絹代　佐々木惠子、鴻上正 青木和之　三谷二六） 大西福祉部長　高橋生活福祉課長　事務局　3 名
傍聴者	市民　　0 人 報道関係者　0 人

協議内容

1. 委員長挨拶	藤枝委員長より挨拶
2. 事務局紹介	人事異動による事務局員変更について紹介
3. 報告事項	(１)第２次地域福祉計画の中間評価から見える地域福祉の課題について【資料１】 ―事務局より説明－ (委員長)この件について委員からご意見ありますでしょうか。 (委員)会場内の音声が聞き取りづらいので、会場の工夫を考えていただきたいと思います。さて、ひきこもりの方がどのように生活しているのか聞いてもご近所の方もわからない、そのようなところがご近所に数件あります。そういった把握ができているのか、どうような方法で社会復帰してもらうのか、そういったことをもっと研究しなければいけない時代になったと思います。一方で外国人労働者が千人程いらっしゃると新聞で出ておりました。そういった方には日本で働いてもらうように国が支援して組織が出来上がっています。制度のアンバランス、まず日本の国民一人一人を大切にする、立ち上がってもらう、そういう手立てをもっと考えないと安心できるまちづくりにはならないと思います。 デマンドタクシーが発足してかなりの期間となりますが、その利用方法については、まだ改善してもらいたい点があります。アンケート結果を見ると民生委員へ相談する方の割合が低くなっています。地域を知ることから始めないと民生委員の仕事は務まらないので

	はないでしょうか。 (委員長) 具体的な部分で意見をいただきましたが、この場で個別の議論を進めると時間が足りないと思います。後の協議事項の中で施策の体系についての議論の際に総合的な議論とさせていただきたいと思います。 (委員) 地域コミュニティ活性化事業について4地区の上位として全市的な協議会を設立するということですか。 (事務局) 協議会は 20 公民館区全てが設立の対象となっており、現在設立しているのが蕪崎、豊岡、中曽根、川滝であります。今後は残り16公民館区での設立を推進していくこととなります。 (委員) 要支援者の避難行動支援に作成について、ケアマネージャーに業務上の義務として取り組むことを求めるのでしょうか。 (事務局) ケマネージャー等のご協力を頂きながら避難行動支援計画の作成を検討していく必要があると考えています。 (委員長) 第2次計画の基本設計は拠点整備をベースとした計画の在り方が前提としてあると思います。一方で拠点に行かない、行けない。そのような方々をどのように支援するのかということを考えていかなければなりません。第3次計画では拠点整備、行けない方へのフォロー、2枚構成の大枠での課題というものはあっても良いのではないかと思います。 (2)市民アンケート調査から見える地域福祉の課題について 【資料2】 事務局より説明 (委員長) アンケートの回収率は50%程で、中でも若年者の回答者が低くなっています。委員の皆様は市民意見としてすべての世代の意見を集約したものではなく、年代の偏りのバイアスがかかっていることを認識しておく必要があると思います。

4. 協議事項	(1)ワークショップに代わる地域意見の集約方法(案)について 【資料3】 事務局より説明 (委員) アンケートの内容については問題ないと思います。送付先について、居宅介護支援事業所や社会福祉法人等は回答者を限定して代表者に記入してもらうようにすべきだと思います。 (事務局) そのようにしたいと思います。 (委員長) 第3次計画を作成するにあたり非常に重要なところですが、人口減少にも関わりますが、市が生き残っていくためにいかに子育てを支援していくか、あるいは他の地域から人を呼ぶかを考えると福祉政策というのは非常に重要なものになると思います。その中で福祉政策はアンケート等もそうなのですが、困ったとか不安に思うことがベースにあって実行される計画を作ろうとしていると思います。そうではなく、そもそも不安がおこらないような社会を作るのかが本来の福祉計画ではないでしょうか。アンケート送付先について本当に第一線で活動している方へのものとなっているのか、オンタイムで子育てしている方を見ている方の意見が抽出できるのかの視点で見ると送付先に疑問を感じます。分野別には大人の配分がどうしても大きくなります。そのあたりのことを考慮してもらうとより広い福祉のまちづくりにつながると思います。 (事務局) 保育園や幼稚園等、現場での意見を取り入れられるように送付対象を検討したいと思います。 (委員) 私も見守りをしているのですが。制服のボタンがついていない、髪がぼさぼさ、傘が折れている、朝ご飯を食べていない、そういった子供を支援するのが福祉なのか、そういった子どもの親を支援するのが福祉なのか、福祉のあり方を考えてほしいと思います。 (委員) 送付先を見ると福祉の専門分野の意見ばかりになってしまうと思います。団体目線だと実際の地域のニーズとずれてしまいます。地域まるごとと考えたときに違った目線をもってこないといけないのはないかと思います。

	(委員) ボランティアで子どもにご飯を食べさせるこども食堂という取り組みがあります。親が悪い、それは問題ではないと思います。現実にご飯を食べずに学校に行く子どもがいることが問題です。今ごはんを食べられない子どもにどのような支援をするか、そこを考えなければいけないと思います。高い理想を掲げた計画でも事業が実行されなければ意味はないと思います。 (事務局) 地域福祉計画の下に各課が所管している小さな事業がついているイメージとなります。上位計画と下についている事業は整合を取らければいけません。個別の事業についてのご意見もあろうとは思いますが、上位計画である地域福祉計画の内容は下位の事業に反映されますので、このあたりの意識を持って議論を進めていただければと思います。 (委員) 地域の課題をどう解決するかを目的としてこの会に参加しました。先程もひきこもり、外国人労働者、デマンドタクシーと３つの意見を言わせていただきましたが、地域で感じている意見をどうするか、一つ一つ解決していかないと何度アンケートをとって計画に盛り込んでもきれいごとで終わってしまうと思います。 (委員長) この後施策の体系というのがあります。ここの議論を掘り下げていくととても時間が足りなくなりますので地域意見の集約に関する事項は以上とさせていただいてよろしいでしょうか。 (２)「圏域」の設定について【資料４】 事務局説明 (委員長) 本件は決議事項でしょうか協議事項でしょうか。 (事務局) 協議事項ですが、決議いただき第３次計画の圏域を確定したいと思います。 (委員長) コミュニティスクール等新たなワードが出てきた中で今決議することは難しいと思いますので、あくまでも協議ということで進めていきます。

	(委員長) ４次圏域について合併から 16 年経過している中でいまだに旧市町村単位の枠組みが必要なのかどうか。今後の展開にあたって重要なポイントではないかと思います。 (委員) いろいろな団体が旧市町村単位で支部を持ち、市で連合会を組織しています。旧市町村単位での圏域設定は問題ないと思います。 (委員長) 他にご意見ありますでしょうか。圏域設定には色々な意見があると思います。いずれ結論を出す必要がありますので継続して審議とさせていただきます。 (３)施策の体系について【資料５】 事務局説明 (委員長) 第３次計画の中の一番上の話が出てきました。委員の皆様がお話ししたいのは施策の方向性より下の、最後の部分ではなかろうかと思います。しかしながら施策の体系は計画を立てるにあたっては避けて通れない部分であります。皆様ご意見いかがでしょうか。 (委員) ところどころ委員の皆様のご意見の出ている個別具体的な課題はすべて施策の方向性から落として行って施策として取り組んで行くこと、そのためにこの場ではまず全体の大きな方向性を決めるということだと思います。その観点からこの案は問題ないと思います。 (委員長) このような感覚がもっと入った方が良いのではないかという意見はございませんか。 (委員長) この計画は市民のものであるんですけど、外部から移住したくなるような施策を積極的に打てて行っていない。西条市なんかは凄くて、注目度が上がっている。地域福祉計画、いいんですけど、他の市にそっくり持って行ってもそのまま通用するんですよね。四国中央市だからこその個性、キャッチフレーズを盛り込むことが大事だと思います。 (委員)

	四国中央市もとても良いまちであると思いますが、その魅力を伝えきれていない。経済状況や自然条件など西条市とそれほど差があるとは思えません。西条は宣伝の方法など上手だと思います。四国中央市は人口減少に歯止めがかかっておらず、合併時の１０万人から今は８万人と大きく減少している現状です。 (委員長) ある程度の指針がないと議論をしてもただの雑談で終わってしまいます。とりえず今日のところはこの施策の体系で話を進めていくことでご了承いただけたということでよろしいでしょうか。 (委員長) そのようにしたいと思います。 (委員長) 以上で本日の協議事項はすべて終了致しました。
５．その他	事務局より今後のスケジュールについての説明 (委員長) 次回までに素案はどこまで進めたものになるのでしょうか。 というのも、かなり作りこんだ素案を見せていただきながら議論を進めた方が策定のスピードも含めて効率的な議論ができるのではないかと思います。委員の皆様いかがでしょか。 (委員長) 事務局よろしいでしょうか。 (事務局) 時間的なこともありますので、次回の審議会までにはたたき台としてある程度ボリュームの持った素案をお見せすることを目標にしたいと思います。
６．閉会	高橋生活福祉課長より挨拶